

○ 教育課程評価票による全体的な傾向から、特に落ち込みのある評価対象に焦点を当てた例
(その2)

下の例は、(その1)で述べたように特に、「学年・学級経営」の評価対象について、落ち込みが見られた。そこで「学年目標の設定」、「学年経営計画の作成とその実際」、「学年会の運営」、「学級目標の設定」、「学級経営の実際」についてより詳細に評価し、学年・学級経営における、問題点を明らかにし、その改善を図ろうとするものである。項目ごとに「自由記述」の欄を設け、評価に対する所見(問題点と改善策)を加え、それを学年単位で集約し、学年会さらには全体協議会などにより検討を加えていくとするものである。

<学年・学級経営>

評価対象	評価観点	5段階評定	自由記述欄
学年目標	1. 学年目標が、教育課程各領域や学年の指導目標、内容のどこに関連するか明らかになっている。		
	2. 学年目標が、児童の発達段階や実態からみて、どのような生活場面で達成できるか検討されている。		
	3. 学年目標が、学年の発達段階からみて、どの程度達成できるか検討されている。		
	4. 目標のうち、学年の実態からみて、どこに重点をおくか明らかになっている。		
	5. 目標設定に当たっては学年教師全員が参加し、検討されている。		
	6. 学年目標は児童及び保護者に浸透されるよう工夫されている。		
学年経営計画の作成と実践	1. 学校の教育目標や努力目標を学年経営の中にどう具現化していくか明らかにされている。		
	2. 学年目標、方針を具現化していくための活動・内容などが明らかにされている。		
	3. 経営計画にもりこむ項目について検討されている。		
	4. 担当者を決めどんな手順で執行するか明らかにされている。		
	5. 特定の教師にまかせないで、全員協力のもとに進められている。		
	6. それぞれの時点で、具体化の手だてを工夫しながら実践している。		
	7. 日々の実践を通して、反省・評価を加え、改善を図っている。		
学年会	1. 学年会の開催に当たっては、時間を効果的に活用している。		
	2. 会のもち方、協議内容、役割分担など明確にされ、計画的な学年会が実施されている。		
	3. 各係は、責任ある企画に当たり、組織を生かした学年会が運営されている。		
	4. 単なる伝達や事務連絡にとどまることなく、各教科・道徳・特別活動、その他の指導についての連絡調整が図られている。		
	5. 学年で協議された事項について、実践に生かす方法が具体的に講じられている。		
学級目標	1. 学級目標の設定に当たっては学校の教育目標及び学年目標をおさえている。		
	2. 学級の児童の実態を明確におさえ設定している。		
	3. 学級集団の目標であるとともに、児童一人一人の目標となるように配慮している。		
	4. 児童にわかりやすく、常に意識しやすいように工夫している。		
	5. 評価しやすいように工夫している。		
	6. 前年度の反省をいかし設定している。		